

**注意点1**

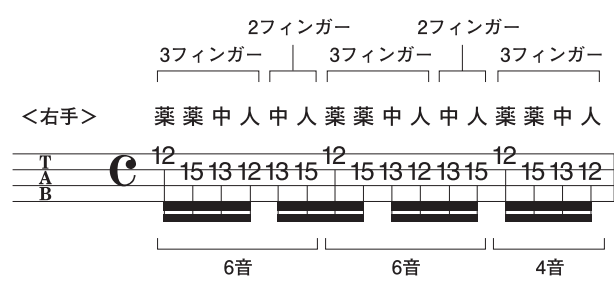


**3+2フィンガーで演奏の効率化を実現!**

メイン・フレーズを演奏するためには、3フィンガーと2フィンガーの混合ピッキングをマスターする必要がある。メイン・フレーズは、1小節の音の区切りが16分音符で6音→6音→4音というポリリズム風【註】になっていて、この6音フレーズを3フィンガーと2フィンガーの混合ピッキングで弾くのだ。具体的には、6音フレーズの前半4音が3フィンガー（薬指→薬指→中指→人差指）で、後半2音が2フィンガーのオルタネイト（中指→人差指）となる（図1）。このように複数のテクニックを適宜組み合わせることで、演奏の効率化と高速化を実現できるのだ。みんなも、ぜひフレキシブルな発想を持って、テクニックの使い方を考えてみてほしい。

図1 3フィンガー+2フィンガーによる混合ピッキング

・メイン・フレーズ1小節目



混合ピッキングとポリリズムに惑わされて、途中でリズムが乱れないように気をつけよう!

**注意点2**



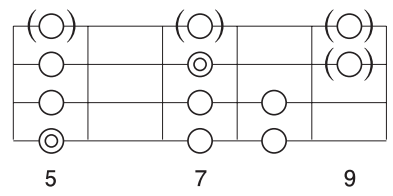
**マイナー・スケールを滑らかに上昇せよ!**

竹フレーズの1~3小節目は、Aナチュラル・マイナーをスケール音の順番どおりに上昇していくフレーズだ（図2）。4弦が3音、3弦3音、2弦が2音という音の配置になるが、効率の良い右手の指順を考えると、まず3音ずつとなる4&3弦は3フィンガーのオルタネイトとなる（薬→中→人、薬→中→人）。2弦の2音は、そのまま3フィンガーで弾き続けると“薬→中”となるが、このままでは次の音に繋げづらいので、2フィンガーに切り替えて“中→人”とピッキングするとよい。こうすることで、2小節目のアタマが薬指スタートとなり、スムーズなピッキングになるだろう。

図2 竹フレーズのポジション

・Aナチュラル・マイナー・スケール

◎ トニック (A音)



このような1本弦に3音を配置するポジションは、よく登場するので、必ず覚えておこう。

~コラム17~

**将軍の戯れ言**

ベーシストが最初に使うエフェクターと思ったら、コンプレッサー（リミッター）になるだろう。では、なぜコンプが必要なのか？ それは、ベースが生音楽器だからである。音を歪ませることが多いギターは、歪ませた時点で音が圧縮（コンプレッション）されるため、音粒が自然に揃う。一方、ベースはあまり歪ませずに生音で勝負する楽器のため、ピッキングの強弱がダイレクトに音に表れてしまうのだ。そこでコンプを使って、音を圧縮し、音粒を揃えるのである。筆者は、ライブではエフェクター（コンプも含め）を通してからDI（ダイレクト・ボックス）に繋ぐようにしている。多

**ベースと切っても切れない深い関係！コンプレッサーの必要性を語ろう**

くのベーシストは、ベース→DI→エフェクター→アンプという順番に繋いでいるのではないだろうか？ 中には“エフェクターはまったく使わない！”と豪語する人もいるだろう。しかし、実際のライブ現場では、ベーシスト自身がエフェクターを使わなくても、エンジニアがPA卓で必ずコンプを掛けている。つまり、ベースとコンプは切っても切り離せない密接な関係になっているのだ。ここで、筆者が先輩に教わった言葉を紹介しよう。“プロというのは、最後まで自分の音に責任を持ってこそプロなのである”。この言葉を、ぜひ胸に刻んでおいてほしい。



ボスのLMB-3（ベース・リミッター・エンハンサー）。著者もレコーディングなどで使用している。

【ポリリズム風】2つ以上の異なるリズムが同時に使用されているリズム・パターンのこと。いくつかのリズムが、ズレて進行しながら、ある瞬間に再びピッタリ合うところにカタルシスがある。